



## Contents

No.

140

## 葛飾区の寺社の歴史

### 特集・半田稻荷神社の歴史



歴史教養講座×シンポジウム2025

モンチャレポイント付与対象

新視点・半田稻荷神社から読み解く江戸時代の寺社と葛飾

令和7年3月22日(土)

開催のお知らせ

当館公式キャラクター ギョギョシくん

## かつしかトピック

Topics  
004

郷土かつしかの歴史や民俗、  
文化財にまつわる話を  
不定期でお届けする  
コーナーです。

第4話のお題は

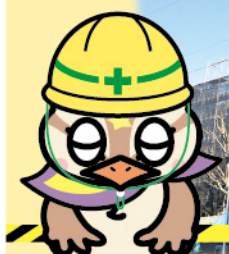
ごろごろ  
「郷倉」!



かやふき屋根だ  
ギョシ〜♡



博物館は改修工事のため休館中ですが、色々な場所で講座やイベント実施中!



UNDER CONSTRUCTION

休館期間

令和6年9月30日~

令和7年3月31日(予定)



地区センター

広場

寺社など

みんなの参加を  
待ってるギョシ〜!

広報かつしか・ウェブサイトも  
チェック!





## 葛飾区の寺社の歴史 特集・半田稻荷神社の歴史

葛飾区東金町の半田稻荷神社は和銅4年(711)創建と有名な社となり、特に江戸の町の人々から大きな信仰を得あり、令和7年3月にはその中間報告を兼ねシンポジウムを開催します。3人の研究者より講演内容をご紹介します。



【新編武蔵風土記稿】半田稻荷大明神(本地仏は十一面観音)  
(国立公文書館蔵)  
※本地仏とは神と仏を同一視する神仏習合思想上の仏の姿。

江戸時代は神仏習合の時代です。多くの神社は、別当寺と呼ばれる寺院が管理していました。そうした中での神社には、一社ごとに神職がいたわけではありません。祭祀の際には、あちこちの神社の神職が掛け持ちしたりするだけでなく、神社を管理する寺院の僧が関与したことが多かったと考えられます。

こうした江戸時代の神社・神職にみられる特徴的なあり方は、何に由来するのでしょうか。その答えを幕府による寺社支配だけでなく、寺院・僧侶の組織と神社・神職の組織、そしてその檀家や氏子であった村人たちとの関係性から探ってみたいと思っています。

### 江戸時代の神社と寺院

当館歴史文化財専門調査員 小沼 幸雄

### 半田稻荷神社と願人坊主

当館歴史文化財専門調査員 清武 雄二

半田稻荷神社は疱瘡(天然痘)や麻疹を軽くする神様として江戸で大流行しました。この流行に貢献したのが願人坊主です。願人坊主は人々に代わり参詣や水垢離を行って祈願することを生業としていました。「半田稻荷大明神」の幟を持って赤い装束で江戸市中を「疱瘡も軽い、麻疹も軽い」と歌いながら歩き廻る姿が評判となり、歌舞伎の題材にもなっています。

しかし、江戸から離れた神社の神様が何故江戸市中で信仰されたのでしょうか。また、神職ではない願人坊主が何故「半田稻荷大明神」のご利益を喧伝できたのでしょうか。その背景にあった江戸時代の特異な宗教観と神社経営のあり方を半田稻荷神社の歴史から考えていきたいと思います。



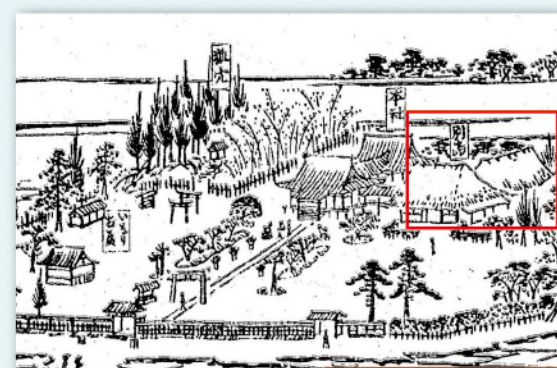
歌川国丸画「けいせい 半田稻荷 業ひら」(当館蔵)

### 半田稻荷神社の神主

国史学会会員 大胡 友暉

一般的に神社といえば、神主を中心とする神職が管理を行っていると思われるがちですが、江戸時代の関東近郊には、専属の神主を持たずに寺院が管理する神社が多く存在しました。半田稻荷神社も同様に、三宝院(天台宗)が管理する神主不在の神社だと思われていました。しかし、本当に神主はいなかったのでしょうか。

実は近年の調査によって、18世紀後半の半田稻荷神社に神主が存在していたことが明らかになりました。さらにその神主は、葛飾周辺地域の神社ネットワークのなかで活動しており、時には京都に上洛するなど、活発な動きを見せていた様子が浮かび上がってきました。このような半田稻荷神社の神主の活動を、日本近世史の展開のなかで位置づけてみたいと思います。



『江戸名所図会』  
半田稻荷神社と別当寺(三宝院)  
(国立国会図書館  
デジタルコレクション)



「別当」と見える

### 歴史教養講座×シンポジウム2025

### 新視点・半田稻荷神社から読み解く江戸時代の寺社と葛飾

令和7年3月22日(土) 午前10時～午後4時

モンチャレポイント付与対象

|       |                                                                         |                                                                                           |                                                                                       |
|-------|-------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 概要    | 葛飾区東金町の半田稲荷神社に関する近世史料から、新たに判明した葛飾周辺における神職や寺院のネットワークを洗い直し、葛飾区の近世史像を探求する。 |                                                                                           |                                                                                       |
| 日程    | 10:00～11:05                                                             | 報告1 「江戸幕府の寺社支配と葛飾地域」小沼 幸雄(当館歴史文化財専門調査員)                                                   |  |
|       | 11:15～12:15                                                             | 報告2 「半田稲荷神社と願人坊主」清武 雄二(当館歴史文化財専門調査員)                                                      |                                                                                       |
|       | 12:15～13:15                                                             | 昼休憩                                                                                       |                                                                                       |
|       | 13:15～14:30                                                             | 報告3 「半田稲荷神社の神職と葛飾・京都」大胡 友暉氏(国史学会会員)                                                       |                                                                                       |
|       | 14:45～15:15                                                             | 報告4 「神職から見た半田稲荷神社の歴史」森山 芳寛氏(半田稲荷神社禰宜)                                                     |                                                                                       |
|       | 15:15～16:00                                                             | 全体討議                                                                                      |                                                                                       |
|       | (進行 当館学芸員)                                                              |                                                                                           |                                                                                       |
| 会場    | 金町地区センター ホール                                                            |                                                                                           |                                                                                       |
| 対象    | どなたでも                                                                   |                                                                                           |                                                                                       |
| 定員    | 100人(多数抽選)                                                              |                                                                                           |                                                                                       |
| 費用    | 200円                                                                    |                                                                                           |                                                                                       |
| 申込方法  |                                                                         | 電子申請(インターネット)または往復ハガキ                                                                     |                                                                                       |
| 電子申請  |                                                                         | 当館ウェブサイトからお申込ください。<br>(2月中旬頃掲載予定)                                                         |                                                                                       |
| 往復はがき |                                                                         | イベント名「シンポジウム」、住所・参加者全員の氏名(フリガナ)・年齢・電話番号を書いてご送付ください。<br>宛先:〒125-0063 葛飾区白鳥3-25-1 郷土と天文の博物館 |                                                                                       |
| 申込締切  |                                                                         | 3月11日(火)(必着)                                                                              |                                                                                       |

# かつしかトピック

Topics  
004

郷土かつしかの歴史や民俗、文化財にまつわる話を  
不定期でお届けするコーナーです。

## 郷倉

堀切には、葛飾区の農村時代の様相を残す「郷倉」という建造物があります。郷倉は御倉とも呼ばれ、年貢を一時的に取めておくために設けられましたが、しだいに非常用の食糧を保管するようになりました。この郷倉の建設年代は明らかではありませんが、その目的は江戸時代の天明年間(1781~1789)以降に続いた飢饉や洪水等の災害に対する備蓄のために建てられたものと思われます。



葛飾区指定有形文化財「郷倉 一棟」  
(葛飾区堀切2-42-2  
葛飾区立堀切小学校敷地内)

### 茅葺きとは

郷倉の屋根は、茅葺き屋根といえます。葛飾区は昭和30年代ごろまでは、田んぼが広がる農村地帯であり茅葺き屋根の建造物は農家の住宅などでは一般的なものでした。茅葺き屋根の素材は、「茅」といいますが、茅という植物はそもそもありません。茅は、屋根を葺く草の総称で、全国的には最もよく使われるすすきのことをいいます。その他にも、ヨシ(葦)等のイネ科の多年草や、麦わら、稲わら等の穀物の茎といった手近に入手できる材料が茅と呼ばれていました。葛飾区では河川敷に自生しているヨシを使用することが多かったようです。

### 郷倉の屋根の葺き替え

郷倉は都市化した環境の中にあるため、葺き替えのタイミングは自然に囲まれた里山などにある茅葺き屋根の建造物と同様というわけにはいきません。葛飾区の貴重な文化財でもあるため、葛飾区文化財保護審議会の建築がご専門の先生に葺き替えの判断をいただいています。今まで屋根の葺き替えは、その時の気候などの状況を鑑み、約10年~15年に一度、直近では平成22年(2010)に行っています。前回から14年を経過し、屋根の傷みも目立ってきたため、令和6年12月から令和7年2月に葺き替えを行うことになりました。葺き替えを行うのは、一般財団法人石岡市産業文化事業団 常陸風土記の丘の職人さんたちです。茅葺き屋根の建造物は区内で唯一のものであり、東京都内でも珍しいものです。ぜひこの機会に葛飾区の農村の歴史や文化を学んでみませんか。



屋根の材料の茅を整えている様子

### 葺き替えの工程

#### 1 茅刈り



11月下旬から12月頃茅刈りが始まります。青いうちに刈ると耐久性に乏しくなるため十分乾燥して(枯れて)から刈る必要があります。

#### 2 運搬



毎年茅を採集するために確保された茅場は、河川敷や台地の耕地にならない山の斜面などに見られました。刈り取った茅を運ぶのは主に人力で、茅刈り以上の労力が必要となりました。

#### 3 貯蔵



刈られた茅は大半が納屋や屋根裏で貯蔵されました。湿気を防ぐことができ、かつ囲炉裏の煙が防腐剤となり、30年から40年でも貯蔵できたといえます。

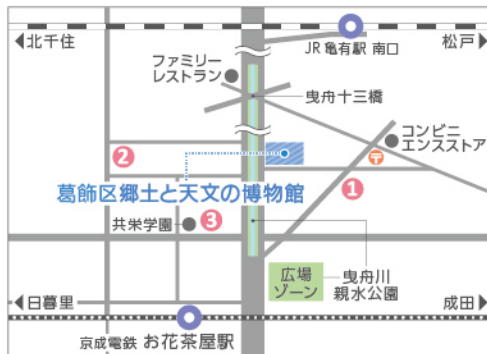
#### 4 茅葺き



古い材料を取り除き下地を作っていきます。屋根の厚みを定める「軒付け」、棟をつくる前までの屋根面を葺く「平葺き」、棟で茅を葺き納め、雨や風から守る「棟仕舞い」をして完成します。

### ご利用案内・アクセス

|            |                                                                                                                          |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開館時間       | 午前9時~午後5時<br>(金・土曜日は午後9時まで開館。ただし金・土曜日は祝日の場合、午後5時に閉館。入館は閉館の30分前まで)                                                        |
| 休館日        | 月曜日、第2・4火曜日<br>(月曜祝日は開館。火曜祝日は開館し翌平日休館)                                                                                   |
| 入館料        | 大人 100円 小・中学生 50円<br>幼児無料<br>(毎週土曜日は中学生以下無料。)                                                                            |
| プラネタリウム観覧料 | 大人 350円 小・中学生 100円<br>幼児(座席を使う場合) 50円<br>(毎週土曜日は中学生以下無料。)                                                                |
| 年間パスポート    | 大人 2,000円 中学生以下 700円<br>購入から1年間、入館料とプラネタリウム観覧料が不要になります。購入時にご希望があれば、「博物館だより」(年3回発行)を1年間お送りします。<br>この印刷物は、印刷用の紙にリサイクルできます。 |



〒125-0063

東京都葛飾区白鳥3-25-1

電話 03-3838-1101 FAX 03-5680-0849

WEBサイト <https://www.museum.city.katsushika.lg.jp/>

- 電車** 京成電鉄「お花茶屋」駅から徒歩8分  
JR常磐線「亀有」駅から徒歩25分
- バス**
- 京成タウンバス(有70系統(土休日運休))で「白鳥わかば公園」バス停下車 徒歩3分  
有70 金町駅南口~亀有駅南口~ウェルビアカツシカ又はタウンバス車庫
  - 京成タウンバス(有57系統)で「上千葉小学校」バス停下車 徒歩5分
  - 京成タウンバス(有57・綾02系統)で「共栄学園」バス停下車 徒歩5分  
有57 亀有駅南口~お花茶屋駅~葛飾区役所又はタウンバス車庫  
綾02 タウンバス車庫~葛飾区役所~綾瀬駅

**お知らせ** 令和7年3月31日まで、当館は改修工事による休館中です。再開時期などについてはウェブサイトでお知らせします。

